



とうとう彼女の身も心も完全に乗っ取った寄生虫。。。
彼女に成り済ます寄生虫に。。。男はいつ気付くのが。。。
そして彼女の身体が完成し。。。男は。。。。。。。。

そして夜◆◆◆
彼女の部屋から艶やかな声が響く◆◆◆

んっ・っ♡

んっ♡

んっ♡

んっ♡んっ♡

んあ・っ♡

暗い部屋・・・彼女は口から伸びた寄生臓器を掴みながら、自慰をしていた・・・





あはっ♡♡♡
人間のメスの身体・
最高お♡

触るだけで
気持ちいいとか...♡
卑怯すぎる♡

ぐわっ♡
ぐわっ♡
ぐわっ♡
ぐわっ♡
ぐわっ♡
ぐわっ♡
ぐわっ♡
ぐわっ♡
ぐわっ♡
ぐわっ♡

すると、彼女の陰部から腹部にかけて皮膚が縦に裂ける・・・
避けた割れ目からは、寄生改造された内臓のようなものが見える・・・







更にその亀裂は上へと伸びていく。◆◆◆

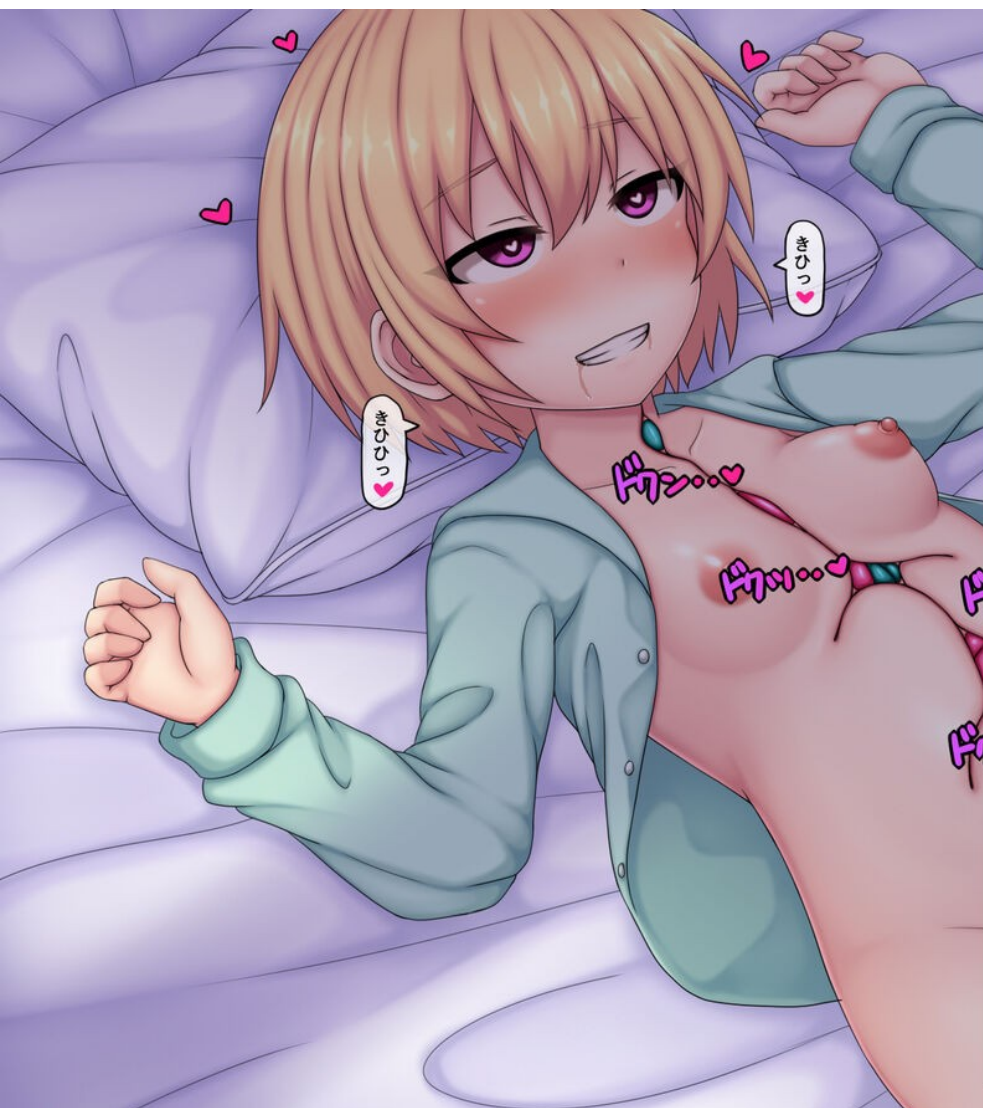
胸の間・鎖骨を越え喉まで伸びると、その動きが止まる・・・
至る所の裂け目から覗かせるピンクと緑の物体が、彼女がすでに人間ではない事を示す・・・





昼。。。男の前で、まだこの身体はまだ未完成だと
仄めかしていた彼女。。。。

しかし、彼女の発言と笑顔から
彼女の身体が寄生・改造を終え、完全に寄生虫の身体へと
変貌した事を表していた。。。。





そして朝

起きて早々、彼女のお腹が鳴る……



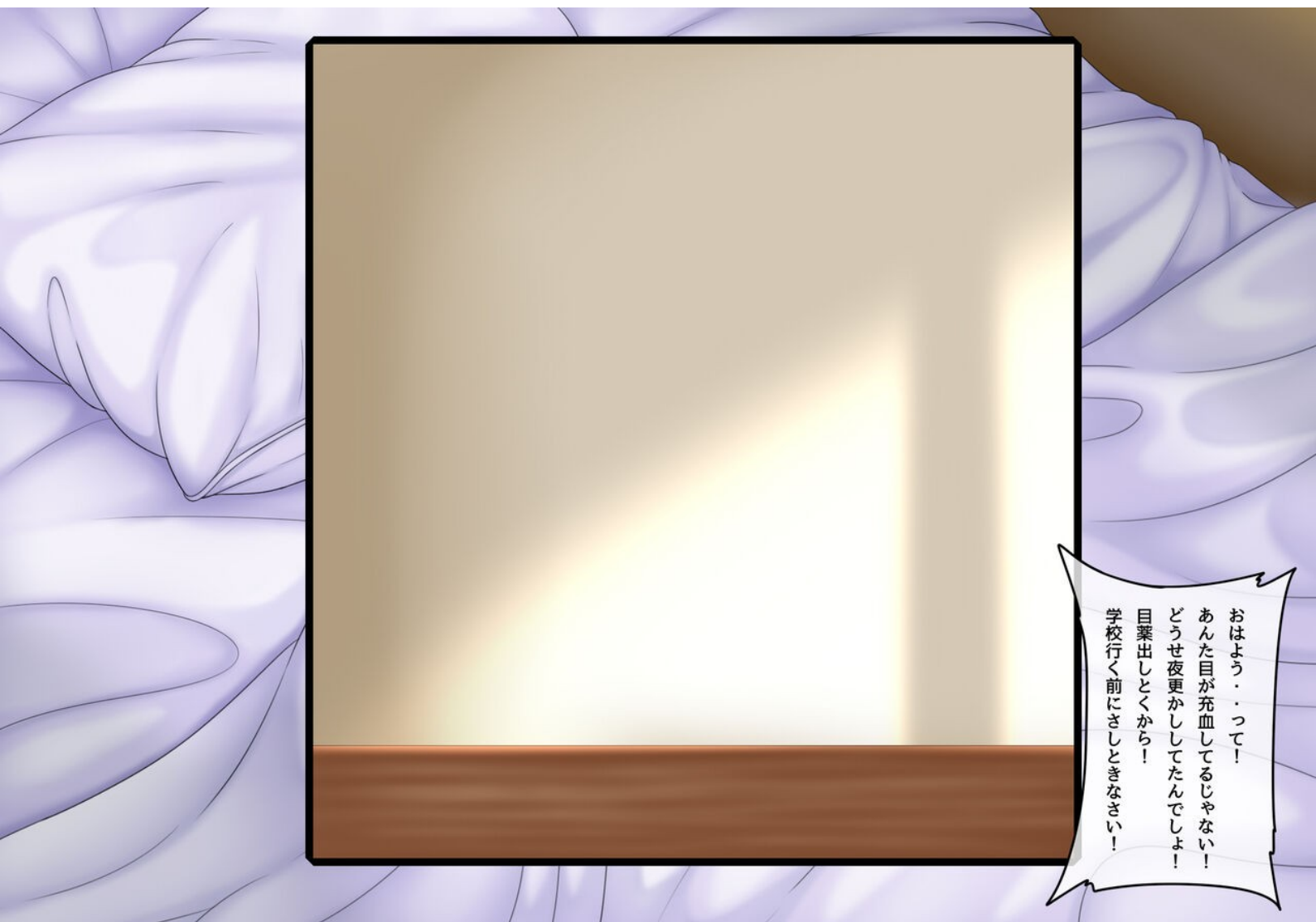


ママー!!
お腹すいたあー!!

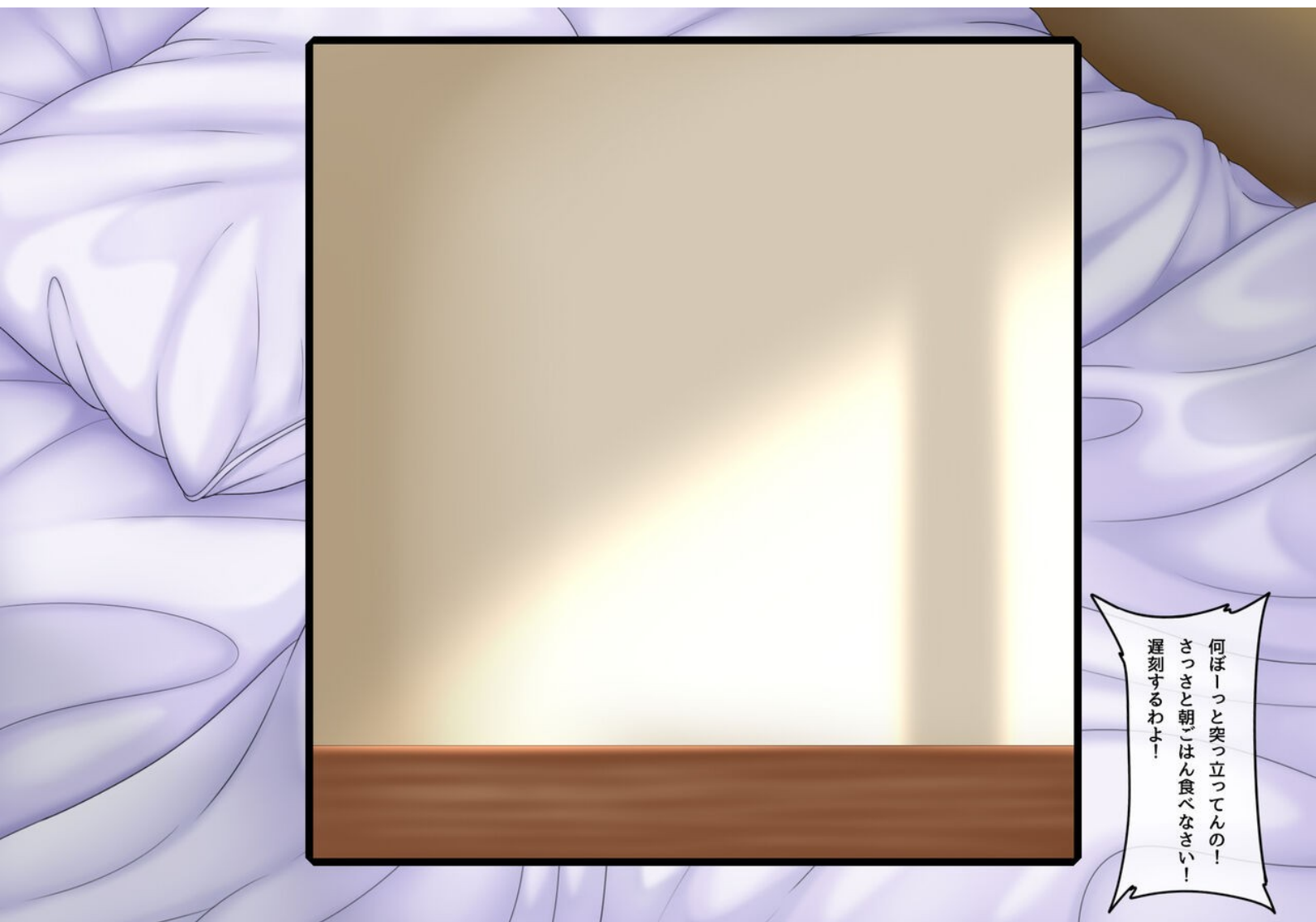


さっさと降りてきて
ご飯食べなさいー！

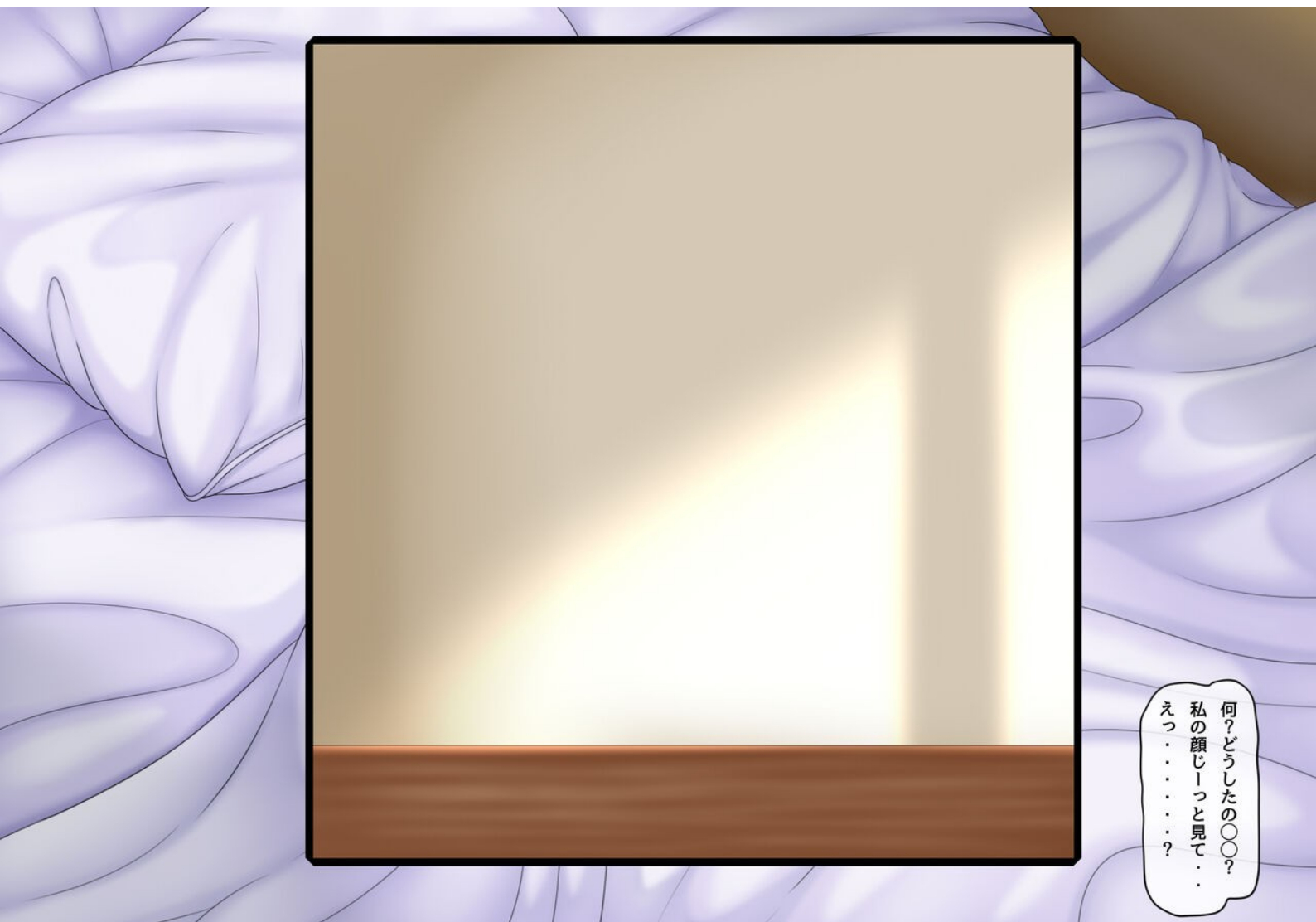




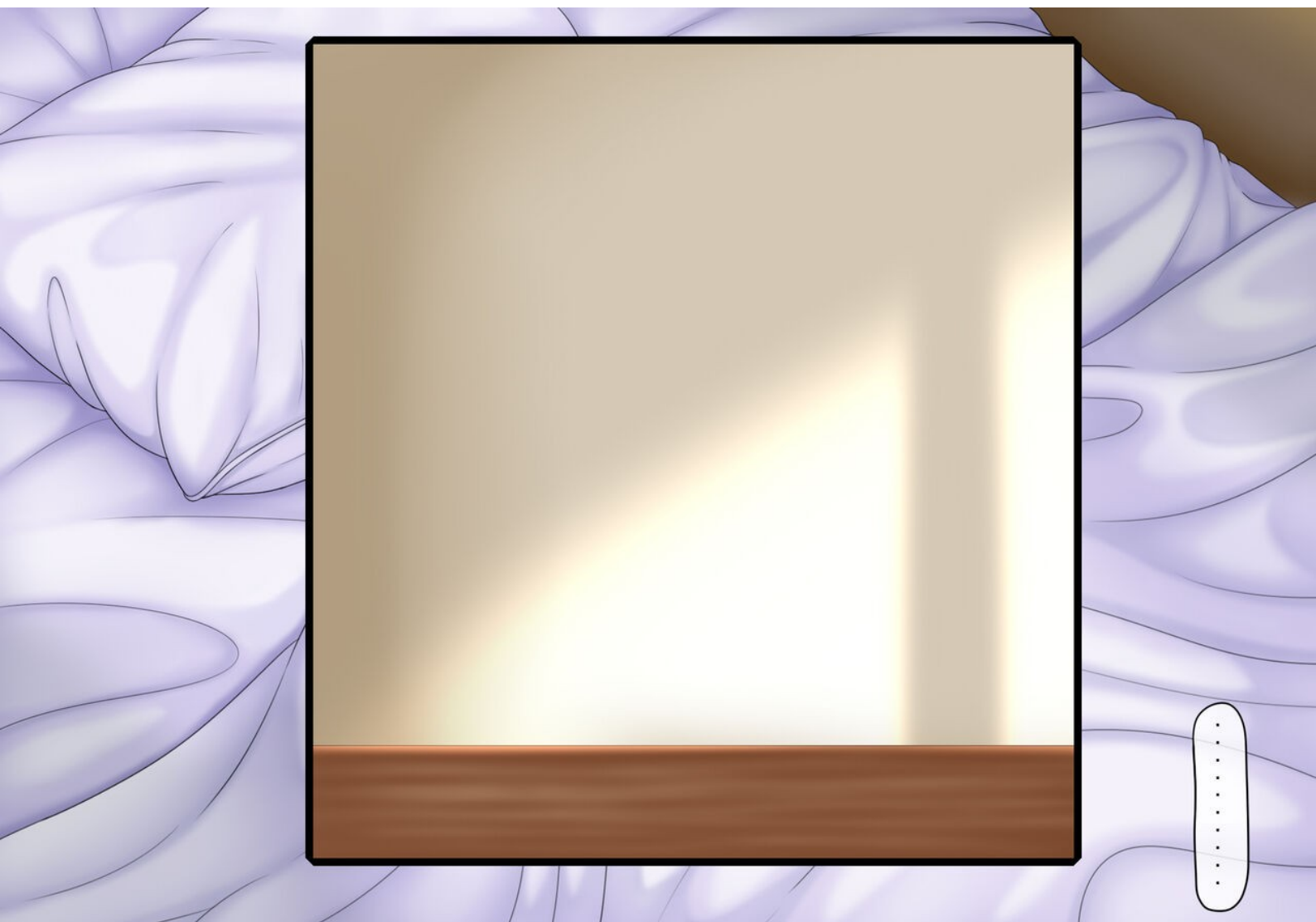
おはよう・って！
あんた目が充血してるじゃない！
どうせ夜更かししてたんでしょ！
目薬出しとくから！
学校行く前にさしときなさい！



何ほーつと突っ立ってんの！
さっさと朝ごはん食べなさい！
遅刻するわよ！



何?どうしたの○○?
私の顔じーつと見て..
えっ.....?





美味しかったあ♡♡

ふー...お腹いっぱいー！



消化しないといけないし...
2度寝しようかな...

でもお腹いっぱいになったら
眠くなつてきちゃった...





起きたら・・・
学校・・・行かないと・・・

そうして彼女は再びベッドに横たわり
眠りについた。◆◆◆◆◆

そして彼女の胴体の裂け目からは、
何かを咀嚼するような音がしばらく鳴り続けていた。◆◆◆◆◆



そして昼
◆
◆
◆
◆
◆



しゅん...

なんだよ・・・
結局休みかよ・・・
今日会いに来るって
言ってたのに・・・

朝食後再び寝た彼女は、まだ学校に来ていなかった。◆◆◆

なんだよ・・・
結局休みかよ・・・
今日会いに来るって
言ってたのに・・・

しゅん・・・

スッ



しかし、突然背後に彼女が現れる。◆◆◆



男はびっくりして思わず振り返る

〇〇おーっす!

!

ビクッ

うわっ!



ご飯食べに来たよ

びっくりせんよ！
ご飯ってお前・・・
今学校に来たのか？

ふと男が彼女の下半身へと目を移すと.....



ん？

.....



男は、彼女がなぜかパンツを履いていない事に気づき、慌てて前を向く。◆◆◆



おまつ！
なんでパンツ
履いてないんだよ！！

ww

あ、ほんとだ・・・
履くの忘れちゃったw

フッフッフ

ポロリ♡

|||||

っっ
っっ

忘れたってお前・・・
普通忘れないだろ！
まだ体調悪いんじゃないか？！

背後では彼女は長い舌を見せつけるように伸ばしていた・・・



絶好調だよ！
もう身体も完成して、
ご飯も食べれるように
なったんだよ！

ピロリン



ん・・・？
まあ・・・それなら
良かったけど・・・



突然の彼女の発言に、再び思わず彼女の方を振り向いてしまう・・・



うん、だからね
今から私の部屋に来てほしいんだあ
○○は私の特別な人だからね♡



えっ!?!はっ!?!
どういう事!?!

ww

あはっ

あははっ
全然見てもいいのにw

|||||

あせ

あせ

あつ！ごめつ！
てか特別な人って
どういう意味・・・？



特別な人って
そのまま特別な人って意味だよ♡
ねえ、今すぐ一緒に部屋に行こっ♡

ば、ばかやろうっ…
まだ授業も終わってないし…



えー...じゃあ
終わってからならいい？

えー・・・じゃあ
終わってからならいい？

これは間違いない。

彼女は俺の事が好きで、誘ってる。

きつと今日俺は、彼女の部屋で。

そう男は察した

しかし恋愛経験のない男は、初めての状況に困惑し、
どうしていいか分からず。



ちよつと待てって・・・
俺たち・・・その・・・
まだそういう関係じゃないし・・・
いきなりお前の部屋には・・・
まだ行けないって・・・

あせ
ん

あせ
ん



ふーん...
そっかあ...

ふ
っ

彼女は話しながらスカートを脱ぎ・・・

特別な人って
記憶があったからさあ・・・
優しく食べてあげようと思っただのに・・・

ズズ・・・

はー・・・

?

え・・・?

いっしょ



すると胴体の中心が縦に裂け始める……

ここだと他の人に見つかったら嫌だったんだけど……

〇〇がそう言うなら仕方ないね……

じゅじゅ……

何言って……



彼女は制服を捲くり上げ、口で啜える・・・

口が塞がり喋れないはずの彼女の声は・・・別の場所から聞こえてきた・・・

ぐいっ・・・

ドクン・・・

ドクン・・・

ドクン・・・

本当は人間の口で
ゆっくり食べてあげる
予定だったんだけど・・・

男は背中から何かを感じたのか、強く身震いをする……

断った○○が悪いんだよ？

ズン……

ズン……

ズン
ズン
ズン



彼女の声で流暢に喋る腹部・・・一方胴体が裂けるにつれ、快感で身体が反応する・・・

って言っても
求愛じゃなくて
捕食なんだけどねw

せっかくメスが
求愛してるのに断るとか・・・



せつかくメスが
求愛してるのに断るとか・

一方、背中越しに彼女を声を聞いていた男は
得体のしれない恐怖を感じていた。・・・
それはまるで背後に牙を剥き出しにした虎が
こちらを睨んでいるかのような感覚。・・・

男はただ震え、言葉を発することができない。・・・

求愛しやなくて
捕食なんだけとねw

彼女の声で流暢に喋る腹部・・一方胴体が裂けるにつれ、快感で身体が反応する・



本当は部屋に来たら、
最後に交尾してあげても
よかったんだけど...

フーッ♡

フーッ♡

フーッ♡

フーッ♡

フーッ♡

ズーン♡

ズズ♡

フーッ♡

プルプル

ゴク



ビックリ

ビックリ

うわぁぁぁ

うわぁぁぁ

でももうおしまい...
ねえこっち見てよ...

ピル

ピル

恐怖から彼女の言葉に無意識に従い・・・男は恐る恐る彼女を見た・・・

ずっと目を逸してたから
気付かなかったと思うけど、
ずっと前から、私はもう
人間じゃないんだよ♡

見ての通り
このメスの身体は私が
寄生して乗っ取ったんだあ♡



男は黙って前を向く◆◆◆◆◆

でもこのメスの記憶は
ちゃんとありんだよ♡

これから上手に人間に
擬態していかないと
安全にご飯を食べられないからね♡



ズン...

ズン...

ズン...

ズン...

ズン...

...

男は口を開く・◆・◆



いつから...
っから●●じゃ
なくなった...



もうだいぶ前だから
覚えてないやw

うーん……
この身体に寄生したのは……

ズン……

ズン……

ズン……



ズン...

ズン...

ズン...

ズン...

ズン...

● ●
最期に教えてくれよ...
の記憶...
俺の事ずっと好きだったのか?

そう言うとな彼女の肛門が盛り上がる・・・



ふふふ・・・
教えてほしい?





ビクッ♡

んふ...っ!

ズルッ...

ズルッ...

ズルッ...

ズルッ...

彼女の肛門から伸びた触手・そして先端には目玉が付いていた・



フムフム♡

フムフム♡

フムフム♡

ズム...

ズム...

ズム...

いいよ...
巨乳で教えてあげる...♡

ズム...

ズム...

ズズ...





しかもそんな大事な事を
目を見て話せない所...

そうやって
自分の気持ちを伝えずに、
好きか嫌いかわわせる所...



www

www

好きなわけ
ないでしょwww

きゅっwww

くゅっwww

あははっwww
辛辣www

そんなんだから
童貞のまま死んじゃうんだよwww

ズル...

ズル...

ズル...

ズル...

ズル...

ズル...

www

ww

来世は頑張ってねw
雑魚人間w

わざわざ部屋に呼ぶ価値無かったなw

こんな雑魚
ここで食い散らかして正解だったね

ばいばい雑魚人間w



来世は頑張っ
てねw
雑魚人間w

こんな雑魚

ここで食い散らかして正解だったね

さくさんの彼女の声で罵声を浴びせられ。。
背後から。覆いかぶさるように迫ってきた彼女。。

視界すべてが真っ暗闇になり。。

その闇の中は。すでに血腥い匂いが充満していた。。

END

わざわざ部屋に呼ぶ価値無かったなw

ばいばい雑魚人間w

























